



なはし市民の友

第725号 毎月1回発行
2011年(平成23年)
6月

市の人口と世帯	
※()内はうち外国人	
2011(平成23)年4月末現在	
総人口	318,637 (2,116)
男	153,717 (1,064)
女	164,920 (1,052)
世帯数	137,046 (1,238)
住民基本台帳人口の内訳(外国人を除く)	

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市上之屋1丁目2番1号
☎867-0111 ●印刷 丸正印刷(株)



今年の「夏」からはじめよう！

東北地方を中心に大きな被害をもたらした東日本大震災。原発事故も重なり、首都圏では、大規模な計画停電も行われました。電力供給能力が大きく低下するなか、県外では、需要の高まる夏場に向けた省エネ(節電)対策が大きな課題となっています。

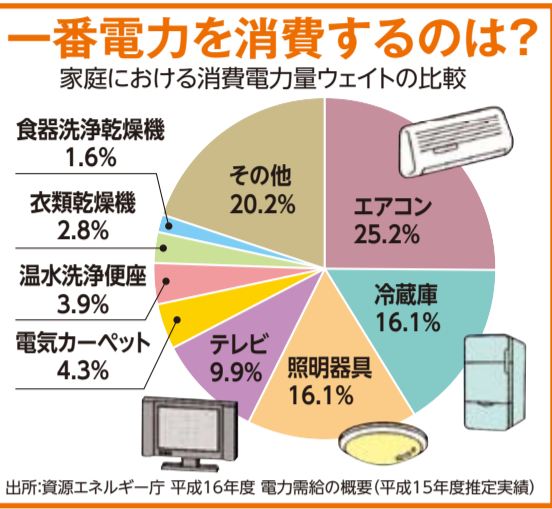
このことを他人事にとらえることなく、私達も、今こそ、省エネについて本気で考える必要があるのではないのでしょうか。

夏場、頻りに利用するエアコンなどの電化製品を賢く利用していますか？正しい知識を持ち、出来ることから省エネに取り組みましょう！

家庭での「電気くい虫はコレだ！」



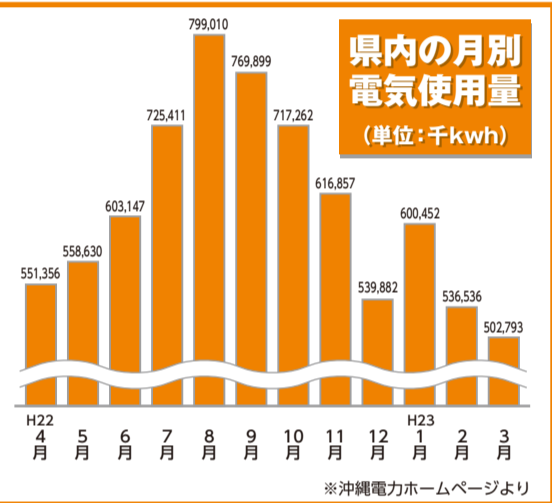
電気使用量(エネルギー使用量)のピークは「夏」



家庭の「電気くい虫」の1位はエアコン。続いて冷蔵庫、照明器具、テレビの順です。

この4項目だけで家庭の電力使用量のおよそ7割を占めます。これらを賢く利用することが、省エネにつながります。

また、電化製品を買い換える際には、省エネラベルの表示を比較して、省エネ性能の高い製品を選択しましょう！



この表から、夏場に電気使用量が急激に上がるのが分かります。これは、冷房のためにエアコン使用が増えるためです。

私たちがひとりひとりが少しずつ節電をすることで、CO₂(二酸化炭素)を削減し、地球温暖化防止につながります。

下記の「オススの省エネポイント術」を参考にして、今年の夏から実践しましょう！

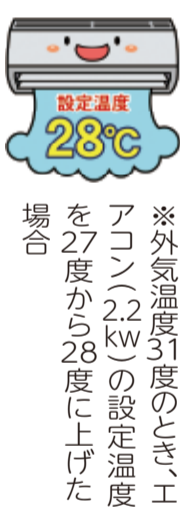
この夏実践！オスス省エネ術「エアコン編」



其の1 フィルターは月1回掃除
(年間CO₂29.7kg削減、約700円節約)
※フィルターが目詰まりしたエアコン(2.2kW)と掃除後の比較
フィルターがほこりで、目詰まりすると風量が落ちて、電力をムダに使うことに。



其の2 冷房の温度は28度に設定
(年間CO₂28.2kg削減、約670円節約)
※外気温31度のとき、エアコン(2.2kW)の設定温度を27度から28度上げた場合



暑がりの方へワンポイントアドバイス！
エアコンと同時に扇風機も使うと、冷房効果アップ！設定温度が28度でも、快適に夏を過ごせますよ。是非、お試しください。



其の3 タイマーを上手に使う
(年間CO₂17.5kg削減、約410円節約)
※冷房の使用を1日1時間短縮(28度設定)エアコンをつけっぱなしで寝て、朝寒かったとほありませんか？タイマーを利用すれば、気持ちよく朝を迎えられますよ。



※二酸化炭素削減量および光熱費節約金額は、(財)省エネルギーセンター「家庭の省エネ大事典2011年版」を参考にしています。

市民1人ひとりが出来ることから省エネに取り組めば、二酸化炭素の排出を抑制できます。

ご協力宜しくお願いします！

お問い合わせ ☎951-3392

協働さん いらっしやい！！

市民・事業者・行政が支え合う協働のまちづくりに取り組む団体、個人を紹介します。

第7回 NPO法人脳文庫

お問い合わせ
まちづくり協働推進課
☎861-3846



NPO法人脳文庫
http://noubunko.org
代表 喜久里美也子さん

第7回は、那覇市協働大使の、NPO法人脳文庫代表の喜久里美也子さんです。

Q 脳文庫の活動の概要

平成10年に脳障がい児の保護者を中心に、自助活動のための情報共有の場として活動を始めました。

現在は次の2つが活動の柱になっています。まず、「障がい関連情報ガイドブック2」の発刊など、情報共有の発信。2つ目が、ユニバーサル社会をめざす活動で、サービス介助士資格認定の県内窓口としての普及活動です。

Q サービス介助士とは

例えば、デパートや金融機関ではお客様の障がいなどの状態に合わせた、最適なサービスの提供が求められています。そのために必要な、介助知識や技術を習得して実践するのが、サービス介助士です。

資格取得者は、全国で約7万5千人、県内では、まだ歴史の浅い資格ですが、すでに900人を超えています。

観光産業が主体の那覇市では、今後さらに需要が高まるものと思えます。

互いに思いやる共生の心

Q 脳文庫のこれからの活動計画
これまで、障がいに関する情報共有の発信を軸に、互いに思いやるひとづくり、まちづくりに取り組んできました。迎える高齢化社会は、長寿の喜びとともに、加齢に伴う症状と向き合う側面を持っています。健康面の不安や、障がいを持った方の視点は、まちづくりに欠かせません。

これからも、共生社会の実現に向けた取り組みを、無理なく続けていけたらと思っています。



相談窓口・公的サポート等
市町村別情報・おもな県内病院
支援団体情報・訪問サービス
発達障害情報などの知っ得情報ほか

障がいのある方が、豊かに安心して生活するために必要な情報を掲載した本です。書店もしくは脳文庫事務所(下記)にてお求めいただけます。
那覇市ぶんかテラス3階3502号室
☎909-1949・0648 喜久里